

宇都宮市立桜小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習に関する項目について】

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」や「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問に対する肯定割合はどちらも市や県の平均を大きく上回っており、児童の学習意欲の高さが伺える。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は88.6%で、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。このことから、話し合いに意欲的に取り組む態度が身に付いていることが分かる。

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定割合は97.8%とほとんどの児童が取り組んでいる。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」「毎日、同じぐらいの時こくにねている」の質問についても市や県の平均を上回り80%以上と肯定割合が高く、規則正しい生活習慣が身に付いている様子がうかがえる。

○「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」では100%の児童が「はい」「どちらかといえば、はい」と答えている。また、「毎日の生活がじゅう実していと感じている」児童が93.2%と市や県の平均を上回っている。児童が責任をもって自分の仕事に取り組み、やり遂げる体験を通して、充実した学校生活が送れていることが分かる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は68.2%で、市や県の平均を下回っている。学校の授業の予習や復習、テストで間違えた問題への取り組みについても同様で市や県の平均を下回っている。勉強の計画や予習復習の内容について具体的な例を示しながら指導し、宿題以外の家庭学習にも意欲的に取り組めるようにしていくとともに、家庭と連携して家庭学習の習慣を定着させていきたい。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合は72.7%で、市や県の平均を5ポイント以上下回っている。話し合いに意欲的に取り組むことは身に付いているので、今後は、話し合いの目的をさらに明確にし、話し合ったことをもとに自分の考えを広げたり深めたりしていくことができるよう、「話し合う題材」や「話し合いの形態」等を工夫していきたい。

【自分自身のことに関する項目について】

○「自分によいところがあると思う」の肯定割合は86.4%、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦っている」では84.1%と、市や県の平均を5から10ポイント上回っている。今後も引き続き児童が自分に自信をもって活動に取り組んでいけるよう、励ましながら支援していきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の質問に対する肯定的回答は75%、「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある」については63.6%と、市や県の平均を10ポイント近く下回っている。今後は、授業においても意図的にニュースの内容や地域や社会のできごとについて取り上げ、児童の興味関心を高めていけるようにしたい。また、高学年として地域の取組・行事への積極的な参加を促し、地域の一員であるという自覚を高め、社会参画への意識を醸成していきたい。

宇都宮市立桜小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・まとめ・振り返りの充実	授業のめあてを明確にし、振り返りをきちんと行う学習サイクル「さくらの学び」の取組	「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の質問に肯定的に回答した4年生の児童の割合は64.7%で、5年生の割合は79.5%で、どちらも県の割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、学校の予習をしている」「家で、学校の復習をしている」の肯定的な割合が、4、5年生ともに市の平均を下回った。	家庭学習の定着に向けた指導の工夫	「家庭学習の進め方」や、「学習のきまり」の活用、「学習がんばり週間」を実施している。今後も継続実施して意欲を高めていくようにする。